

大分県長期漁海況予報

〔平成 28(2016)年 1 月～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 27 年 7～12 月>

■黒潮

都井岬沖にあった小蛇行が、7 月下旬～8 月下旬に足摺岬～潮岬沖を東進した。以降は、都井岬～潮岬沖では「接岸」～「やや離岸」で推移した。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、7月「平年並み」、8月「やや高め」、9月「低め」、10月は「やや低め」、11月「やや高め」、12月「平年並み」で推移しました(図1)。

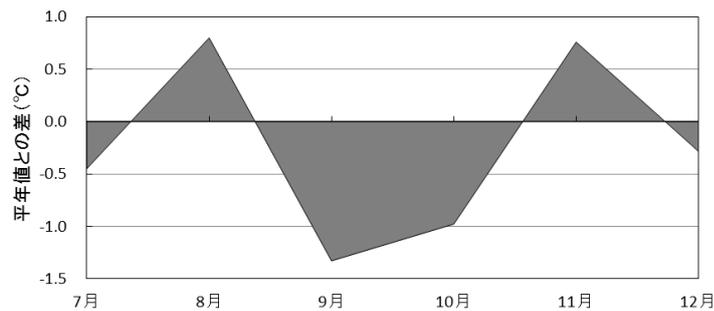


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、7月「平年並み」、8月「やや高め」、9月「平年並み」、10月「平年並み」、11月「やや高め」、12月「平年並み」で推移しました(図2)。

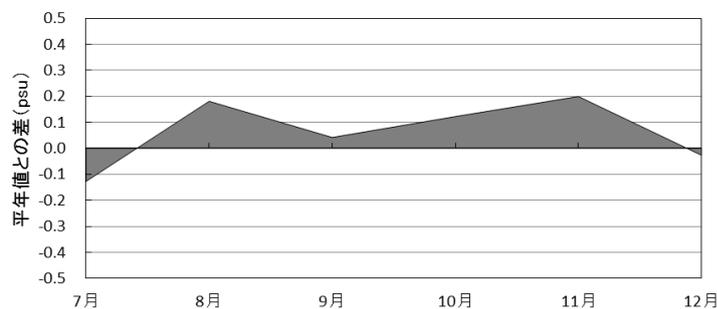


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し＜平成 28 年 1～6 月＞

■黒潮

都井岬～潮岬沖では、接岸傾向が続くでしょう。

■沿岸水温

「平年並み」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

・黒潮流路予測は平成 27 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2015)を参考にしました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区气象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では「低め20%、平年並み30%、高め50%」と予測していることから沿岸水温は平年並みから高めで推移すると思われる。

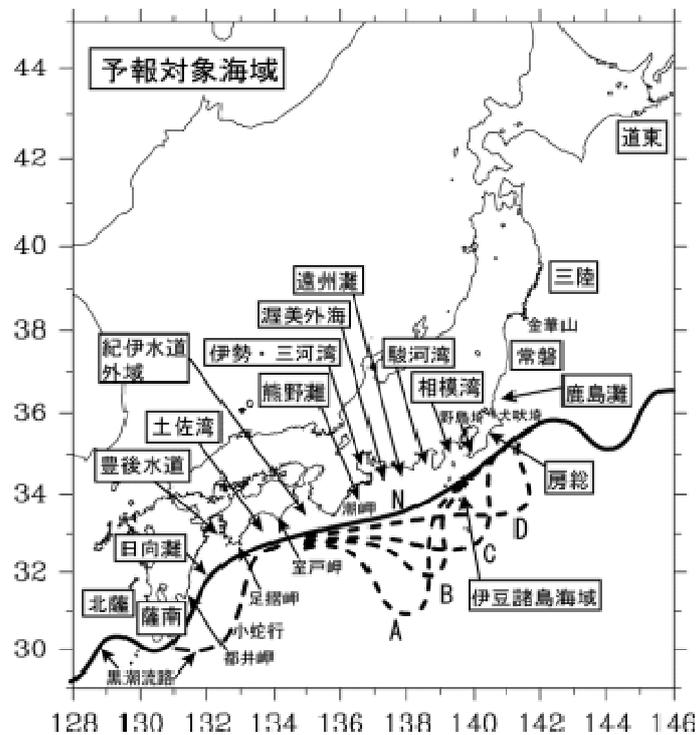


図3 黒潮流型の分類

※上図は平成 27 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2015年7～11月の漁況経過

2015年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は7月に1,373トン、8月に1,601トン、9月に1,302トン、10月に17トン、11月に417トンの計4,710トンでした。前年比261%、1986～2014年の平均値(以下「平年」)の比253%と、前年・平年を上回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長^(用語解説①)10～15cm前後(いずれも0歳魚:2015年生まれ)でした。

なお、近隣海域^(用語解説②)では宮崎県は前年の515%、愛媛県は前年の361%、高知県では前年の2,914%の漁獲量となっています(愛媛県のみ2015年8～11月、その他は2015年7～11月の漁獲量合計値)。

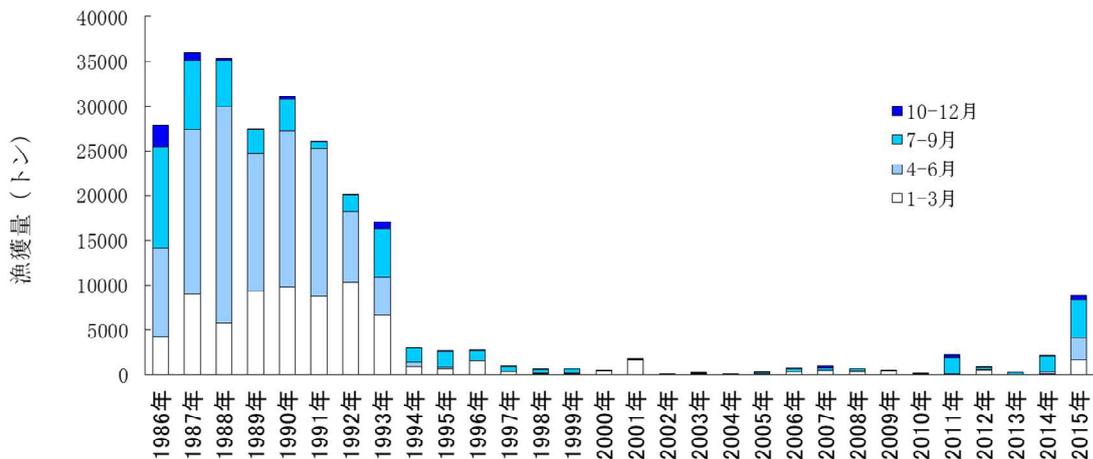


図4 マイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年1～6月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2015年1～6月:4,150トン)

漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長20cm前後の1～2歳魚(2014・2015年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2016年生まれ)主体に1歳魚が混じるでしょう。

【説明】

2015年7～11月のマイワシ漁獲量は4,710トンで被鱗体長10～15cm前後の0歳魚を主体に前年比261%、平年比253%と、前年・平年を上回りました。この水準はマイワシ漁獲量が急減した1994年以降最高水準の漁獲です。そのため2016年1～3月は例年明け1歳魚(2015年生まれ)が主体となるので、前年に比べ来遊に期待が持てることから、予測は前年を上回るとしました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2015年7～11月の漁況経過

2015年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は7月に97トン、8月に144トン、9月に135トン、10月に313トン、11月に99トンの計788トンでした。前年比27%、平年比54%と、前年・平年を下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は7～8月は被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2015年生まれ)および1歳魚(2014年生まれ)でした。9月以降は6～8cm前後の0歳魚(2015年生まれ)主体でした。

なお、宮崎県では前年の26%、愛媛県では前年の80%、高知県では前年の56%の漁獲量となっています。

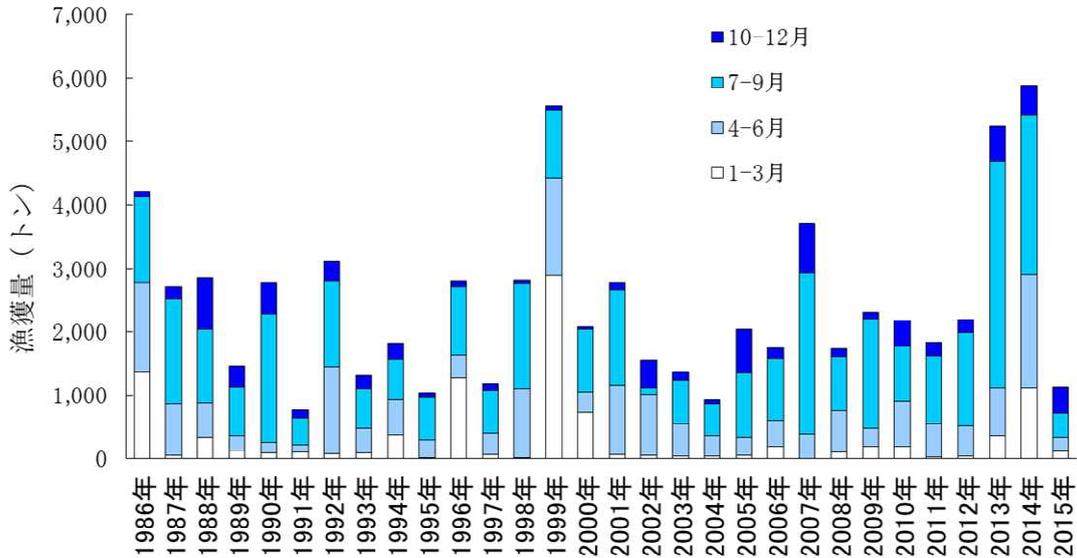


図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年1～6月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2015年1-6月:334トン)

漁獲対象年級群及び体長:

1～6月は1歳魚(2015年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

例年、1～6月は1歳魚が主体となります。また、例年9～12月は0歳魚が主体であるが2015年9～11月の漁獲量は547トンで前年比34%であり、前年を下回っていることから、明け1歳魚(2015年生まれ)の漁獲は低水準で推移することが予想されます。したがって前年を下回る来遊と予測しました。

■ウルメイワシ

□2015年7～11月の漁況経過

2015年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は7月に59トン、8月に83トン、9月に92トン、10月に186トン、11月に44トンの計464トンでした。前年比23%、平年比51%と、前年・平年を下回る漁となりました。漁獲の主体は、7月は10cm前後の0歳魚(2015年生まれ)と18～20cm前後の1～2歳魚(2013、2014年生まれ)で、8月以降は7～15cm前後の0歳魚および1歳魚となりました。

なお、宮崎県では前年の148%、愛媛県では前年の360%、高知県では前年の103%の漁獲量となっています。

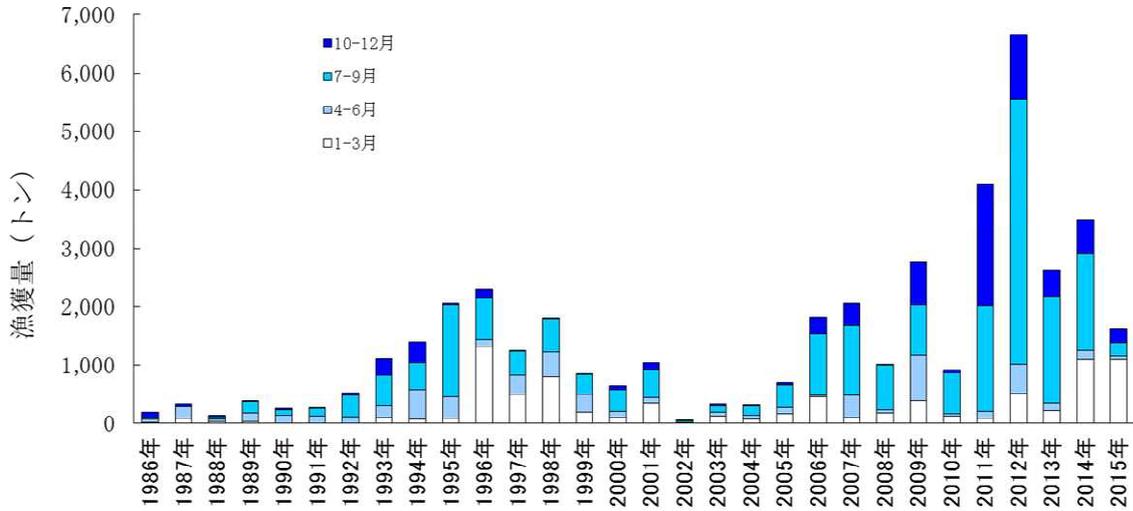


図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年1～6月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年並みでしょう。(2015年1-6月:1,145トン)

漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長20cm前後の1歳魚(2015年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長15cm未満の0歳魚(2016年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

1～3月に漁獲の主体となる明け1歳魚(2015年生まれ)は、2015年生まれが漁獲の主体だった2015年4～11月のまき網漁獲量が522トンで前年比24%と前年を下回ったことから予測期間中の来遊は低水準になると予想できます。しかし今年はいワシ資源の急激な増加によりウルメイワシへの漁獲圧が減少したとも考えられるため、来遊水準は前年並みと予想しました。

■マアジ

□2015年7～11月の漁況経過

2015年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は7月に29トン、8月に44トン、9月に44トン、10月に150トン、11月に27トンの計294トンで、前年比94%、平年比19%と前年並みで平年を下回る漁となりました。漁獲の主体は尾叉長^(用語解説③)10～15cm前後の0歳魚(2015年生まれ)主体に、9月は6cm前後の0歳魚が、10～11月は20cm前後の1歳魚(2014年生まれ)が混ざりました。

なお、宮崎県では前年の90%、愛媛県では前年の33%、高知県では前年の88%の漁獲量となっています。

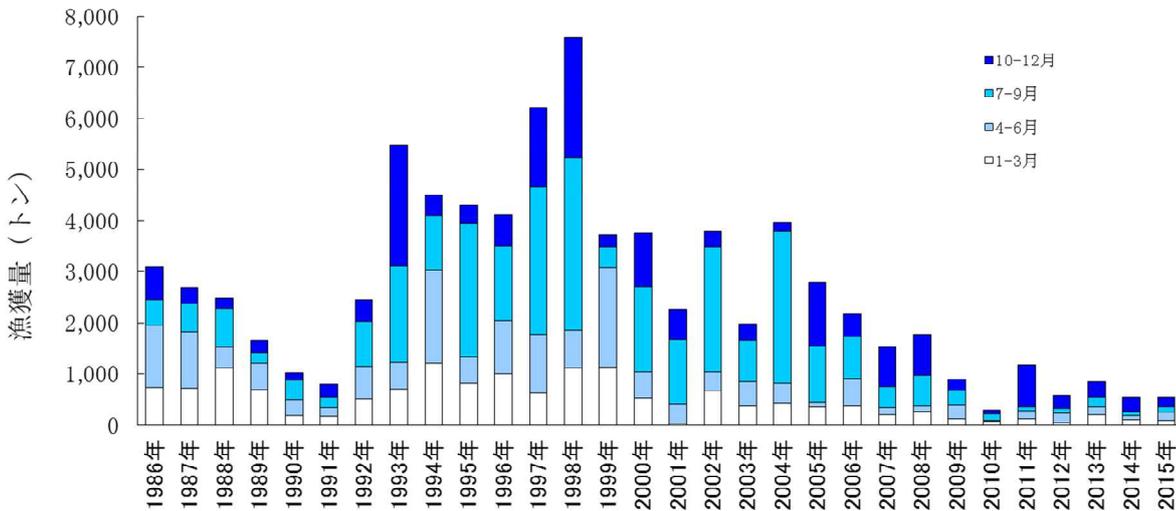


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年1～6月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年並みでしょう。(2015年1-6月:249トン)

漁獲対象年級群及び体長:

1歳魚(2015年生まれ)が漁獲の主体となる。

【説明】

例年、1～6月は1歳魚が主体となります。例年8～11月は0歳魚が漁獲の主体になりますが、2015年の該当期間における漁獲量は265トンで前年比86%であり、前年並み程度であったことから、来遊水準は前年並みと予想しました。

■さば類

□2015年7～11月の漁況経過

2015年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるさば類の漁獲量は7月に13トン、8月に18トン、9月に2トン、10月に56トン、11月に269トンの計358トンでした。前年比32%、平年比12%と前年・平年を下回る漁でした。

宮崎県では前年の290%、愛媛県では前年の116%、高知県では前年の54%の漁獲量となっています。

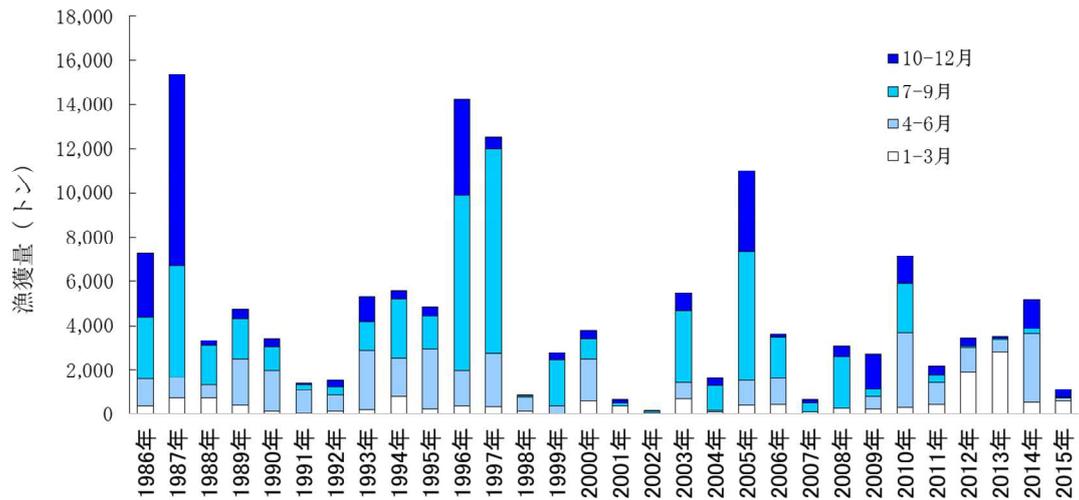


図9 さば類(マサバ・ゴマサバ)のまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年1～6月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並み～上回るでしょう。(2015年1-6月:757トン)

漁獲対象年級群及び体長:

近年の調査結果によれば、1～3月はマサバ・ゴマサバ2～3歳魚主体となります。4月以降はゴマサバが主体となり2～3歳魚に0～1歳魚が混ざります。

【説明】

当期はゴマサバ2～3歳魚が漁獲の主体となると予想されます。中央水産研究所によるとゴマサバ2歳魚(2014年生まれ)は近年の平均を上回る加入量水準とされ来遊量は前年並み、3歳魚(2013年生まれ)は近年の平均を上回る加入量水準であり来遊量は前年を上回るとされています。また、マサバ3歳魚(2013年生まれ)は近年では卓越して高い加入量水準であり来遊量は前年を上回ると見積もられていることも加味すると、豊後水道への来遊への不確実性はありますが、マサバ・ゴマサバとも資源豊度が比較的良いことから予測は前年並み～上回るとしました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・平成27年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2015)

■用語解説

- ①被鱗体長 : 体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 : ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6
電話:0972-32-2155
FAX:0972-32-2156